

入学式 式辞

少し例年より早く咲いた、満開の桜の花の後に、鮮やかな緑の若葉が萌え出でようとしています。

この輝くような春のよき日に、ご多用中にも関わりませず、多数の保護者の皆様の御臨席を賜り、令和二年度倉敷市立玉島東中学校入学式を挙行できますことを、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本日、入学された、一六六名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私たちは皆さんのご入学を心待ちにしておりました。これから始まる中学校生活は、顔見知りの先輩や同級生がいくらかはいるスタートとはいえ、やはり緊張することもあるでしょう。新しい先生方との出会いもあります。わからないことは尋ねながら、一日も早く中学校生活に慣れて、充実した毎日をおくって欲しいと願っております。

現在、感染症の対策で、少し不自由な面がありますが、わたくしの思いをお話しします。

本校の校訓は「強く・正しく・あたたかく」です。

この校訓の「強く」とは、体も心もたくましく健康であるということです。そして、たくましい強い心身をもつためには、いろいろな幅広い体験が必要だと思えます。人前で調べたことを発表したり、応援される中でプレーしたり、演奏したり、といった幅広い体験を重ねて強くなっていくと思えます。「正しく」という言葉については、正しい判断力をもつということを意識してほしいと思えます。何が本当に正しいのかを見極めるには、広く学び、公正に自分で考えることが大切です。そのためには、しっかり読書をしたり、新聞などでニュースにふれたりしてほしいと思えます。

「あたたかく」とは、思いやりをもって、互いに支え合うことです。そして、その第一歩として、「明るいあいさつ」が大切です。あいさつは、お互いを認め合い、大切にすめるメッセージだからです。

これからの三年間、皆さんは、登下校の時には、かならずこの校訓が刻まれた碑を見ます。この校訓を意識して、自分で納得した思いでその言葉を見つめてほしいと思えます。

この校訓に込められた思いが身につけられれば、将来社会人となった時に起こる困難を、乗り越えるための力にきっとなると思えます。

学習面であれ、学校行事であれ、部活動であれ、一つ一つの課題に対して、粘り強く自分で考え、自分たちで協力して解決し、乗り越えていってください。そして、その過程で困ったら、迷ったら、どうぞ先生方に相談してください。

そして、もう一つ、私は、皆さんには、「自分にしかない可能性」「自分にしかできないこと」を追求してもらいたいと思います。

これは、玉島では特に親しまれている良寛さんのエピソードです。良寛さんは実家の没落などの、人生の悩みから、悟りを求めて新潟から、玉島円通寺に來られて修行されました。子どもと仲良しの優しいお坊さんというイメージですが、実は悩んだことや感動したことをたくさんの漢詩や短歌、俳句に書き著した優れた詩人・書家でもありました。

その詩の中に、

「谷川の水の流れをさかのぼってその源を尋ねていった。源に到達したら思いもかけないことに源などという特別なものがあるわけではないことを知った。私が杖をつきつつ歩くその一步一步に清水が湧き出てくることを知った。」という意味の漢詩を晩年に書かれています。

つまり、何かを求めて追い求めることこそが大切であると気づいたということ。何かを追い求めたからこそ良寛さんはこの思いに至ったのでしょう。

本校の皆さんも、この伝統ある美しいふるさと玉島で「自分だけの輝きを求めて、一步一步歩いていける人」に成長して行ってください。

終わりになりますが、学校では、教職員自らが、日々研鑽に努め、愛情をもってお子様方が成長できますよう全力を尽くす所存でございます。また、学校教育と共に、家庭・地域が太いパイプでつながり、生徒を見守り、育てていくことが重要であると考えております。今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

新入生一人ひとりが、在校生とともに、たくましく成長されることを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和二年四月十日

倉敷市立玉島東中学校長 吉実隆充